

社会を知り 未来開こう 米沢東高生に読み方講座

初のオンライン開催



ビデオ会議アプリを通して生徒が新聞を読む意義などを学んだ講座＝山形市・山形メディアタワー

考えるチカラは知ることから
1学級1新聞

地方創生をテーマに、山形新聞が提唱する「1学級1新聞」の公立高普通教科版

を導入している米沢東高（米沢市、平塚志信校長）の生徒を対象にした新聞の読み方講座が20日、ビデオ会議アプリを使って開かれた。1、2年生22人が、新聞を読む意義や紙面の特徴

を学んだ。

同校は現在、日本新聞協会の2020年度NIE（教育に新聞を）実践指定校に申請中で、秋からのNIE実践活動を予定している。今回の講座はNIEの事前学習を兼ね、新型コロナウイルス感染防止のため初めてオンラインで開催し、山形新聞の小林裕明取締役編集局長が講師を務めた。

山形市の本社編集局と生徒それぞれの自宅をビデオ通話でつないだ。小林局長は見出しの役割や記事の書き方を説明したほか、社説が小論文を書く際の参考になること、複数の新聞の読み比べが自分の考えを養うことなどを紹介。「コロナ禍で一人一人がどう向き合っていくかが問われている。社会の動きを把握するのに新聞を有効に活用し、明るい未来を切り開いてほしい」と呼び掛けた。2年五十嵐明穂さん（16）は「クラスに新聞が配られているので、興味を持った記事を読んで文章を書く力を身に付けていきたい」と話した。

県内高校を対象にした「1学級1新聞」は、山形



SDGs（持続可能な開発目標）のマーク

新聞社OBの故鈴木正氏の篤志で設立された「鈴木基金」を活用し、趣旨に賛同する県内外の企業に協力を呼び掛けて実施。私立高と実業高、公立高普通科の計54校に新聞を届けている。

【協賛企業】山形銀行、荘内銀行、きらやか銀行、山形県民共済生活協同組合、日東ベクト、日新製菓、アイジー工業、かわでん、角田商事、山形トヨペット、ネットトヨタ山形、山形日産グループ、沼田建設、升川建設、山和建設、J A全農山形、ヤマザワ、山形パナソニック、須藤不動産、ウソノハウス、幸栄建設、加藤総業、ウエノ、電通